

令和7年度 第1回スマートシティ実装化支援事業等推進有識者委員会
議事概要

日時：令和7年7月28日(月) 16:00～18:00

場所：国土交通省6階局議室

資料に基づき説明がなされた後、下記の意見交換がなされた。

○意見交換

【令和6年度採択事業の効果検証結果及び考察】

(失敗・成功要因とその展開)

- 都市局は、国の資金を投入した大規模な実証実験に対して評価する立場であることを前提とすると、一定の評価を行う必要がある。効果検証結果を分析し、スマートシティを推進する地方公共団体や民間事業者等（以下、「実施主体」という。）に分析結果を共有することを重視してはどうか。
- 議論する際には、何をもって社会実装、マネタイズ、失敗・成功とするのか、言葉の定義に改めて留意する必要がある。
- コンソーシアムの参画団体数において、多ければ多いほど良いわけではなく、アクティブな団体がどの程度存在するかが重要である。費用負担においても、民間事業者がすべて負担しているから事業が推進されるわけではない。実装や持続可能性の考え方は多岐に渡り、価値をどのように認めるかがポイントになる。他市事例では、「駐車場の需給バランスの平準化に関する効果が確認できたが、対象駐車場が少なく、アプリの認知度に不足感がある」とあるが、そもそも対象駐車場が少ないのはなぜなのかを分析する必要がある。駐車場が少ないにも関わらず、今後参画する駐車場に対して一定の保守負担を求めていると参画ハードルが高まることが想定されるが、どのように持続性を考えているのかも不明であり、より詳細に分析することが望ましい。
- 都市局として何を基準に実証結果を評価するか、何を推奨するかを整理したうえで、各事業を評価し、また評価を踏まえた示唆を一般化して公表することが必要だと考える。
- 評価基準を明確化しなければ、実施主体がどのようなアクションを今後行うべきかが曖昧になる。都市局としての評価基準を設け、評価を結論づけた資料を作成する必要がある。
- 検証結果が理解しやすい効果検証指標と、結果の読み取り方が分かれる指標がある。結果の読み取り方が分かれる指標は評価が困難であり、表現に注意が必要である。

- 事業内容とビジョンを結びつけるロジックツリーが明確になっていない。効果検証の言葉の定義を改めて検討すべきだと感じる。実施主体のイメージがどうかコミュニケーションを重ねることで、読み手の共感を呼ぶような内容を整理する必要がある。
- 検証結果の読み手の共感と納得を得るロジックの在り方や、スマートシティ事業と関連が強い効果検証指標を設定する必要がある。例えば、読み手としては、イベントの参加者数だけでなく、コンテンツの内容まで興味があるのではないかと。

(費用負担とマネタイズ)

- スマートシティに関心のある多くの団体は、継続的な費用負担の有無及び程度に関心があるため、目標達成の有無とマネタイズについて、効果検証結果として明確に整理する必要がある。
- 継続的かつ効率的なマネタイズを検討するにあたり、補助金頼りではなく自走するために何が必要となるかを分析することが望ましい。